
<みそひともじ小説> らくよう

松原 透

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「みそひともじ小説」らくよつ

【ZPDF】

Z8005Y

【作者名】

松原 透

【あらすじ】

ふるやとに、ヒカルと亜季は旅立った。そしての時を迎えるために。

地の文が「五・七・五・七・七」の短歌調、合計31文字になつて
いるため、三十一字小説といたしました。
最後までお付き合いいただければ幸いです。

「ここに来ると、何だかほつとするね

霜月の冷えた空気が頬を打つ。色づくあきは、ながめの中。

紅に、染まる木の葉が風に揺れ、空の涙に露が滴る。

「まあ、故郷だからね。仕事も全部終わらせたし、確かに何だかスッキリしてる」

「相変わらずだね、ヒカルは。もつ辞める会社なのに、どうしてそんなにマジメに仕事しちゃうの？」

朗らかに、そして優しくあきは来た。雨が過ぎ去り晴れ間が覗く。

久方の、光差し込む町並みは、記憶と同じ田舎の顔で。

「そこがヒカルらしいんだけど。それにしても久しふりだね」

「高校を卒業して以来だから、何年ぶりかなあ。家は見て行く？」

「うう、やめとく

俯いて、かなしいあきは歩き出す。流れる風に押されるよう。

物憂げに入相の鐘、町に降る。見上げる先に、山が聳える。

「とっても懐かしいね。子供のころヒカルとよくこの山に登って、

お母さんに怒られた記憶がある

「仕方ないよ。獸道みたいなのがないし、地面は滑るし、崖になつてるとこだつてあるから」

紅葉もみじはの移り行く様、ながらに、季節外れの蚊遣火に似る。

踏みしめた地面の泥が濡れていた。土へと還る落ち葉と共に。

「ここの先に渓流があつたよね。確か、すつごに綺麗だつたこと覚えてる。変わつてないかな」

「分かんないけど、変わつてなければいいなあつて思う。私、あそこがとても好きだつたから」

山鳥の鳴き声だけが木靈する。木々が途切れで響く水の音。

ゆく川の、猛々しくも美しく、突き出た岩に碎ける翡翠。

「綺麗ね」

「うん。変わつてない。昔のままだ」

幼き日、今と変わらぬこじら立ち、ともに無心で流れを追つた。

時は過ぎ、巡る季節をせき止めて、思い描くは雲居くわいの逢瀬。

「重季、こじらでいい?」

「うん」

ぬばたまの、よる冬のかげ穏やかに、やがて旅立つ一人を隠す。

冷えた手に、ひかる白銀だきしめて、あきの時雨を^{しぐれ}記憶に刻む。

「ありがとう。ヒカルお兄ちやんが、一緒に来ててくれて本当によかつた」

「向こうで、また逢おうね」

ひらひらと、ただひらひらと、まつてこる。あおほりへり。ひは沈みゆく。

(後書き)

「」まで読んでください。本当にあります。

大半の方がお気付きましたが、気付いていただけなかった場合の空しさが半端ないため、この場にて少しばかり解説をさせていただきます。

文中の不自然なひらがな表記はだいたい掛詞になっています。「落葉と洛陽」「秋と亞季」「夜と寄る」「待つていると舞つて」、「悲しいと愛しい」「田とヒカル」などなどです。最後のは強引ですが……（汗）ちなみに「行く川と逝く川」で三途の川をイメージしています。

また、歌詞もと「」に使っています。「蚊遣火」……表に出せずにくるる恋情」「雲雨」……非常に遠いところ、「時雨」……初冬のにわか雨。また涙を流すこと」などなどです。

よろしければ、感想お願いします……で、げそ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8005y/>

<みそひともじ小説> らくよう

2011年11月23日20時50分発行